

幼児教育長期派遣通信3学期号

発行 令和2年3月18日

府中市立旭小学校 青山 俊美（派遣園：広島大学附属三原幼稚園）

研修題目を「幼児期に育まれた資質・能力をつなぐ小学校のスタートカリキュラムの開発」とし、1年間研修してきました。本通信では、学んだことをお伝えします。

研修を通して入学前の子供の特性と幼児教育の理解を深め、幼児期に育まれた資質・能力とともに教師の関わり方も小学校教育に接続したいと思いました。幼児の学び育つ力と、教師の幼児一人一人の見とり、受容的な支援、思いや願いを引き出す声掛けなど、大変参考になりました。

1 研修内容

(1) 園内研修

- ・ 幼児期の子供の学びと育ちや特性の見とり ・ 保育者の環境構成と支援の見とり
- ・ 幼児教育アドバイザー訪問による幼児理解と幼児教育の研修 ・ 保育補助 ・ 園内行事
- ・ 所属校のスタートカリキュラム作成

(2) 園外研修

- ・ 報告会 ・ 園所参観と教職員連携 ・ 所属校児童参観と教職員連携
- ・ 所属校校内研修 ・ 府中市幼保小接続推進協議会
- ・ 所属校のスタートカリキュラム作成に当たっての連絡協議

5つの力…感じる・気付く力、うごく力、考える力、やりぬく力、人とかかわる力
10の姿…①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え
⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重
⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い
⑩豊かな感性と表現

2 実践を通して

私は、子供の学びと育ちを **5つの力**や **10の姿**で見ようにしてきました。幼児期の子供は、身近な環境に主体的に関わって行動し、遊びや生活の中で、様々な力を総合的に身に付けていることを実感しました。その姿を見て、特に感じたことは、下記のことです。

幼児期の子供は、主体的に身近な環境に関わりながら遊んだり生活したりし、自ら学び育っている。

子供の遊びや生活について

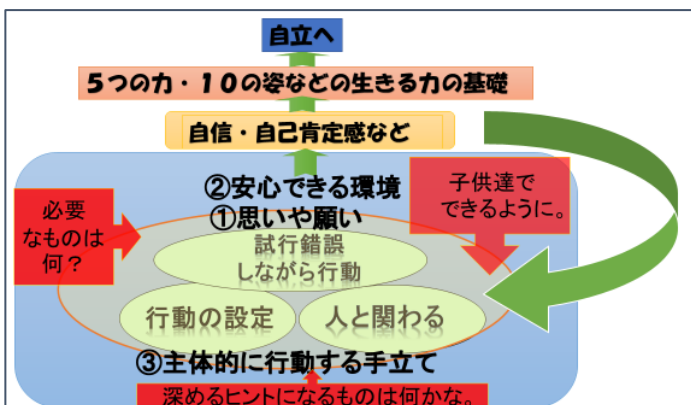


私は、子供の遊びや生活を左の図のように考えました。

子供はまず、身の回りの環境（人・もの・こと）から「何をしようかな」「あれは何か」「やってみようかな」等と感じ、気付き、やりたいことを見つけます。それから「どうすればよいか」「何が必要か」を考えます。さらに試行錯誤しながら行動や活動を深めていきます。友達と関わることで遊びや生活が広がり深まることもあります。思い通りにいかず葛藤し、ぶつかることもあります。そんな時は、譲る、我慢する、話し合う、折り合いをつけるなど、人と関わりながら解決をします。困った時には周りにいる大人を頼ることも大切です。

子供たちは、生活や遊びの中で、主体的に考えて行動することを通して、自ら学び育っているのです。小学校の学習に繋がる主体的・対話的で深い学びの基礎を身に付けていると感じました。

子供は誰しも、自らの力で「やりたい」「できるようになりたい」「がんばりたい」という思いや願いをもち、達成する力と可能性をもっています。遊びや生活を通して、自信や自尊心などを身に付け、「もっとやってみたい」「もっとこうしよう」とさらに主体的に行動します。このことを繰り返しながら、生きる力の基礎を身に付け、さらには自立していくのだと考えます。(下記の図)



子供を支えるのは大人です。まずは、「どうしたいのか」「どう思うのか」子供の思いや願いを引き出す必要があります(左図中①)。そして、安心して自己を発揮し、主体的に行動できる機会や場である「安心できる環境」が必要です(左図中②)。さらに、その「安心できる環境」の中で子供が主体的に行動できるように手立てを講じることが指導者の役割だと感じました(左図中③)。

重要なのは、子供の主体性を大事にすることです。主役は子供です。私は今まで、児童が困

らないように、失敗しないように、できるようにと支援指導をしてきたつもりでした。一見、主体は児童であるかのように思えます。しかし、これは私の枠にはめようとし、子供の願いや思いを引き出すことを忘れていたと気づきました。私は、今後、下記のことを意識していきたいと考えています。

教師は、児童の思いや願いを引き出す発問や声掛けをすること。

教師は、児童が安心して、自信や自尊心を感じながら、主体的に行動できる環境づくりや支援をすること。



学んだ幼児期の子供の特性と教師の役割を生かした接続カリキュラムを作成しよう!!

児童が自分の力を生かして学び、課題解決するようなスタートカリキュラム

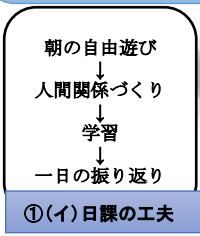
以上のように、幼児期の子供の特性と教師の役割について学んだことを生かし、下記の2本の柱立てで接続カリキュラムを考えました。①児童が安心できる適切な環境構成と②児童が自信をもち、主体的に活動するための場の設定と支援を具現化するスタートカリキュラムです。

①児童が安心できる適切な環境構成

- (ア) 受容的な態度で信頼関係を築く
- (イ) 日課や週案の工夫
- (ウ) 教室環境や学習形態の工夫

②児童が自信をもち、主体的に活動するための場の設定と支援

- (ア) 生活科中心の合科・関連・モジュール学習等、カリキュラムマネジメント
- (イ) 自己決定の場
- (ウ) 必要に応じた支援




3 まとめ

この研修を通して、幼児期の子供の特性と教師の役割について理解を深めることができました。そして、それらを生かした接続カリキュラムを作成し、4月から活用したいと思います。今後も、幼児教育における子供の見方、関わり方など、幅広く小学校教職員に広げていきたいと思っています。

乳幼児教育支援センターから

幼児期の子供達は環境と関わりながら自ら育っています。そのような子供達の思いや願いを理解し、引き出す関わりをすることで、小学校に入学する児童の主体性を発揮できるのではないのでしょうか。スタートカリキュラムのキーワードは「子供の姿が出发点!」です。

青山先生が研修で学んだことを生かして、今後さらにより実践を積まれることを期待しています。